



くりはら ひと×コト Interview



夢の実現

「結婚したら花山に戻って農業をしたい」

花山地区 中村 友紀さん

— それではさっそく、友紀さんに花山での暮らしや子育てなどについて伺いたいと思います。友紀さんは花山出身ということですが、一時期は関東に住んでいたこともあるとか？

はい。高校生までは地元花山に居ましたが、卒業後は就職して千葉県に引っ越しました。

アパレルショップなどで働いたのですが、**結婚を機に21歳の時にUターンして花山に戻ってきました。**

— いずれは地元に戻るつもりだったのですか？

はい。実は地元で行われた成人式に出席した時に、「**結婚したら花山に戻って農業をするのが夢!**」と書いていたんですよ。

それが今、ホントに夢叶って、花山に暮らして農業をしています。

— 当時話してたことが実現するのは嬉しいことですよね！

それにしても、埼玉県出身のご主人は、奥さんの地元で暮らすことには抵抗がなかったのですか？

それほど抵抗はなかったみたいです。

農業も未経験だったのですが、興味があったようなので良かったなと。

ただ、2人で初めて私の実家に車で向かった時、どンドン続く山道に「**この先、家はあるんだよね？大丈夫だよな？**」って、かなり不安がっていました(笑)



【プロフィール】

中村 友紀 (ゆき) さん 昭和58年1月生まれ (34歳)

高校まで地元の栗原市花山で暮らす。

高校卒業後は、就職で千葉県に引越し、アパレルショップなどに勤務。

21歳の時に、結婚を機にご主人とともに花山へUターン。

現在は、しいたけ栽培をしながら、祖母・父・母・ご主人・お子さん2人とともに花山で暮らしている。



— なるほど(笑) 確かに埼玉県では感じられない大自然が広がっていますもんね。

Uターンしてからのお仕事はどうされていますか？

もともと、実家は稲作農家だったのですが、Uターンしてきてからは、私たち夫婦でしいたけ栽培を始めました。

現在は、主人は知人の農業をお手伝いして、私がメインでしいたけ栽培を行っています。

来年あたりからは、また二人でやろうかって話しているところです。

— それはいいですね！ご夫婦そろっての農業、応援しています！

— お子さまはお二人いらっしゃるんですよね。

はい。小学校4年生の娘と、幼稚園の年中の息子がいます。

— 花山での子育て。環境はいかがですか？

とてもいいですよ～!

よく都心だと待機児童の問題が挙げられているじゃないですか。「それならばぜひ花山に来てください。すぐに入れますよ～!」って言いたいですもん。

花山幼稚園は3年保育なので、とても助かっています。それに**預かり保育の場合、午後6時30分までみてくれます**しね。

— そうなんですね！それだと、親御さんも安心してお仕事ができますね。

はい。それに**栗原市は18歳まで医療費がかからないんですよ**。そんな環境に慣れているので、他県に住む従兄弟にも同じく子どもがいるのですが、聞いてみたらそこでは、医療費がかかるらしくて。それに驚いています。

— なるほど。それはかなり助かりますよね！小学校に通う娘さんもいるとのことですが、学校の環境はいかがですか？

娘が通う**花山小学校は、小規模特認校制度**を受けている学校で、児童数は少ないのですが、そのせいか学年も性別も関係なく、仲良く遊んでいますよ。



— それはいいことですね。地域の方たちも、子どもたちを優しく見守ってくれている印象があります。

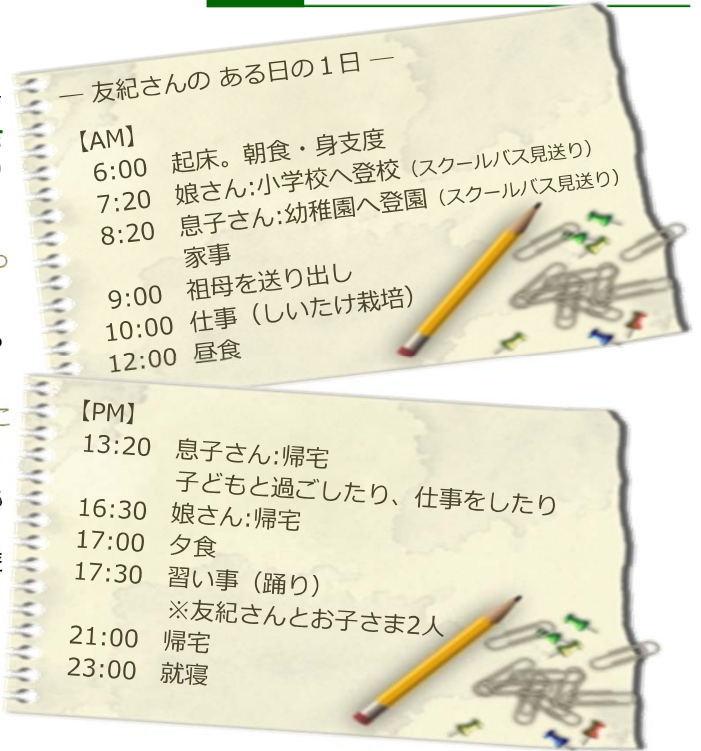
そうなんです。都心では不審者も多いからか、"むやみに挨拶はしないように"なんて教育されているかもしれませんが、ここでは、昔から「挨拶はきちんとしなさい。」と言われて育っていて、その環境でいまでも子育てができるのはありがたいですね。

— ご近所さんとのお付き合いもあるので、地域全体で助け合っで見守ってもらえる雰囲気が伝わりますね。

はい。そのためか、震災が起こったとしても隣近所と協力して乗り越えられる。都心にいるよりは身動きが取れる、そう思っています。

— なるほど。お子さんも含めて、今の環境が気に入っているのはいいことですね。

そうなんです。たまに都市部に行くことがあるのですが、その時、子どもに「こういうところに住んでみたい？」って聞いてみるんですね。でも「ううん、花山がいい！」って言うんですよ。花山だったら冬は雪遊びができるし、子どもにとっての楽しみがたくさんあるみたいです。



— ゲームや

おもちゃを買わなくても、自然を使って遊ぶことができますよね！…と言いつつ、習い事もいろいろと習っているとか？

はい。子どもたちはピアノや踊り、太鼓などを習っていますね。

— 忙しいですね（笑）

でも、伸び伸びと楽しく生活しているのが伝わってきますね！ぜひ、このまますくすくと成長してほしいですね。

— では、最後に。ご覧になっている移住を検討されている方たちへ一言、お願いします！

花山は、自然も豊かで、子どもたち同士もいじめなどもなく、仲良く伸び伸びして、子育てするにはうってつけの場所です。

そうは言ってもなかなか伝わりづらいと思うので、ぜひ一度、花山に来てみてください！

インタビュアー：村山喜子（地域おこし協力隊）
撮影：佐藤真子（地域おこし協力隊）

第1回 東北U・Iターン 大相談会

暮らし相談 しごと相談

2017年 7月23日(日)
11:00~17:00 (前夜入場 16:30)
東京交通会館12階ホール
(東京都千代田区有明2-10-1)

移相 相住 談住

あれこれ!

くりはらの "暮らし"&"しごと"情報お届けします!!

具体的な情報提供をさせていただくために!

大相談会では、暮らしだけでなく、栗原での「働き方」についてご提案できればと考えています。そこで、当日お越しになる場合は、知りたい情報を事前にご連絡いただければ、詳しい資料をお持ちします。ぜひお気軽に電話・メールでご要望ください。

皆さんの新たなステージでの生活が豊かなものになるように!

私たち移住定住チームの最大の目的は、田舎への移住を思い描いている方の新たな生活が豊かなものになることです。

「移住」は、その後の人生にとって大きな決断になります。1つのきっかけだけでは決められないものだと思います。

だからこそ、そのフィールドとして「栗原」が本当に適しているのか、誠意をもって相談者の皆さんが判断できる情報や機会を提供させていただきます。皆さんのお越しをお待ちしております!

栗原市企画部 定住戦略室 TEL 0228-22-1125
E-Mail teijyusokushin@kuriharacity.jp



移住 農業 「農業がしたい」飛び込んだトマト栽培の世界 トマトハウス夢風船 小野寺 吉生 さん

6月17日に開催された「第2回みやぎ移住フェア」において、栗原市一迫でフルーツトマトハウスを経営されている小野寺さんのお話を伺うことができました。その概要をレポートします。

🍅 トマト栽培できる土地を求めて、栗原市へ

もともとは北海道出身。大学卒業後、肥料会社で働いていましたが、農業がしたかったことから、H8年に営農できる土地を求めて宮城県庁に飛び込んでいき、そこで現在の栗原市一迫を紹介されました。

当時、旧一迫町長に直接お会いし、『本気ならば』と、新規就農者支援住宅を貸していただき、また、ハウスを建てる土地を紹介してもらい、その翌年、40アールのハウスを建てて栽培をスタートさせました。

🍅 初めからフルーツトマトを作るんだ!と決めて飛び込む!

肥料会社勤務時代に培ったノウハウや自分の知識を活かしたいという思いから、初めからトマトを、しかもフルーツトマトを作るんだ!と決めていました。

夢風船のトマトたちの収穫時期は11月から7月ですが、甘味が凝縮する、いわゆるフルーツトマトになるのは2月から7月までのものです。中でも3~6月は最高の食べどきです。



🍅 あなたがやりたい「農業」を具体的にイメージすること

まず一番大切なことは、**あなたがやりたい「農業」を具体的にイメージすること**です。「農業」と言っても、お米（水稲）づくりから、畜産、野菜など様々です。その中でも何をしたいのか、**目的をはっきり持つこと**が重要だと思います。

更には、市場の動向や消費者のニーズなどをある程度分析した上で、**どのように販売していくのか**、そこまで具体的に考えることが重要です。

そして、その計画に対して、指導機関からのお墨付きをもらえれば、ようやくスタートラインに立てるんだと思います。

私自身は決して大規模経営ではありません。スモールメリットという言葉があります。小規模だからこそ品質にとことんこだわり、大切に育て上げたフルーツトマトを自信を持ってお客様にお届けできるのだと思っています。ですので、小規模農家の良いところを活かして、新しい魅力、価値を創りあげていくことも要素として捉えてほしいと思います。

🍅 積極的に地域の中へ! されど自分を主張しすぎず!

移住先の地域との付き合い方も大事です。**移住者を最初からウエルカムな地域はない**と思います。かと言って、それは決して排他的なものではなく、こちらの様子を伺う感じなんだと思います。

決してよそ者に対して無関心ではないんですね。仕事ぶりや態度などを見ているんです。ですから、まずは地域の方にお会いしたら、**こちらから挨拶できれば大丈夫**です。そうするとだんだんに仲間に加えてもらえるんです。

地域の皆さんは、**よそ者に期待している**部分もあります。ですから自分から地域の中に飛び込んでいくことです。

ただし、**自分を主張しすぎないこと**です。やはり、昔からの地域の風習や何かしらのルールみたいなものがあります。そこをガツガツ変えていこうみたいなことを主張するのはあまり良くないと思います。

地域の人々と交流を重ねていくと、不思議と大きな「力」に変わっていきます。例えば、販売・加工など、**交流のアプローチ**が経営にも活かされてくるんです。

🍅 夢だけでは食べていけない。「経営」していかなければいけない。

作物を育て、それをお客様に喜んでもらう。これだけだったらホントに農業は楽しいです。でも、現実には決してそんなに甘くはありません。「経営」していかななくてはなりません。県の専門機関などの指導を受けながら経営計画を立てるわけですが、初めからその通りうまくいくものじゃありません。

少なくとも最初の1年は農業での収入は得られません。最低限**3年分の食いぶち（貯蓄）は用意しておく**ことが肝要です。

冒頭にも話しましたが、まずは自分がやりたい「農業」を具体的にイメージすることが第一歩です。そうすれば、何が必要なのか、どのような支援策を受けられるのかなどが見えてきて、自ずと道は拓けていくと思います。



「ビックリ」するほど「ビック」な子育て支援
絶賛 PR中です!



移体 一度、栗原を感じてみませんか?
験住 「移住生活体験住宅」利用者募集!

まずは気軽に田舎暮らしを体験してもらえよう!
栗原市では、田舎暮らしや栗原市への移住を考えている方が、気軽に生活体験ができるよう、「移住生活体験住宅」を2棟ご用意しています。H28年度は、11組(19名)の方にご利用いただきました。

体験したいスタイルに合わせて、体験住宅を選べます!
Aタイプは木造平屋(3LDK)で、建物は比較的新しく眼下には花山湖が望めます。Bタイプは木造平屋(6DK)で、昔ながらの日本家屋です。
利用期間は、1回あたり連続する3~10日以内で、利用料は無料です。初めて栗原を訪れる方には、まずは2泊3日のプランをおススメします。

滞在期間中のお客様の「プラン」をサポートします!
利用申込みの際、滞在期間中、どのような方と意見交換したいか、住まい・仕事面など移住に関するどのような情報収集をしたいのか、滞在中のプランをお気軽にご相談ください。



魅力 探訪 地元産のそば粉と食材を堪能 秘湯 × そばの里 花山

山菜茶屋 ざらぼう

▽営業期間 4月中旬~11月中旬
▽営業日 土・日・祝日のみ 11:00~16:00 (品切れ次第閉店)
▽住所 花山字本沢猪ノ沢6-6 (Tel. 0228-56-2980)
店主の伊藤さんはH17年に花山で田舎暮らしを始め、翌年に開業しました。カツオやアゴなどのダシを使ったつゆは旨味が強く、そばによく合います。山菜やきのこの季節の天ぷらや、岩魚の寒風干しも人気です。



手打ちそば 花舞の里

▽営業期間 3月中旬~12月中旬
▽営業時間 11:00~16:00 (品切れ次第閉店)
▽定休日 木曜日
▽住所 花山字本沢切留5-4 (Tel. 0228-56-2170)
天然水仕込みの二八そばと、自家栽培の野菜やマイタケ、丸ごと食べられる炭火焼岩魚の天ぷらが人気です。
そば粉で作る甘からしゅうゆだれの「かいもち」も絶品です!

